

せせらぎ Message 18 3/27/2013 発行

マングローブの林にて

馬場 政孝

エビの養殖池やオイルパーム栽培などの広がりによって（亜）熱帯地方のマングローブの林が減少し、大きな環境問題として喧伝されてから久しい。その後、この問題はどうなったのか、タイの南部を訪れて実際の姿を検分してきた。

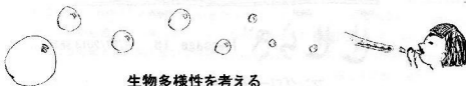
タイは象の頭部の形をしているが、その鼻の部分に当たるマレー半島の沿岸部には広大なマングローブ林がある。地図を見ると、海岸線が複雑で入江が入り込み、川らしきものが奇妙に渦巻いている地形が見られるが、このような場所は間違いなくマングローブ林である。トラン県の海岸部もこのような地形をしており、訪れたパリエン郡スソ村はマングローブの林の中にある。ここにいくつかのエビ養殖池があるが、その開発者は資金に物を言わせて土地を買占めた台湾の業者であり、村の人は直接関わっていないという。ここではエビ養殖池が拡大している様子はなく、村人はエビ養殖に冷ややかな視線を向けているようだった。村人が関わっているのはマングローブ炭を作るためにマングローブを伐採することぐらいであるが、マングローブ保護のために現在はマングローブ炭づくりはやっていない。大きな炭焼炉がモニュメントとして残っている。村人の生活はゴム園経営、マングローブ林から得られるカニなどの漁獲によって支えられている。

トラン県は観光地から距離があり、乱開発からは免れているようである。観光地ブーケットに近いバンガー県の沿岸部のマングローブ林は無残な開発によって消滅し、スマトラ沖地震の際の津波によって甚大な被害を被った。トラン県ではマングローブ林が津波のエネルギーを吸収し、家屋損壊や人的被害はほとんどなかったという。そのため行政当局もマングローブ保護に向けて動き出し、植林やジュゴンの保護などに補助金を出すようになってきている。ジュゴン保護が強調されるのは、ジュゴンがマングローブ林と一体となった生態系とみなされているからであり、そのシンボルと見られているからである。

しかし、トラン県にも開発の波がひたひたと押し寄せている。エビ養殖池開発以上に破壊力を持つのは道路建設である。車に依存する生活スタイルはここにも確実に広がってきており、マングローブ林を潰して道路を作るのが安易な方法となっている。マングローブ林保護が自覚的になっている周辺村人達の間でも、道路建設によるマングローブ林消滅に関してはあまり注意が向けられていないようであり、生活の利便性が優先されているよ



うに見受けられる。車は魔力を持っているのである。この魔力は、マングローブにとって、自然環境にとって、ひいては人間にとって最大の脅威ではないだろうか。



生物多様性を考える

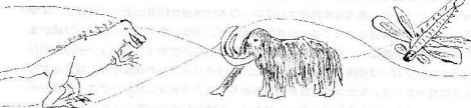
船津好明

地球上の動物や植物の種類は非常にたくさんあって、私はその数え方を知らない。人類も生き物だが、人類の増殖と活動が他の生き物を追いやり、絶滅に至る生き物があるという。既に絶滅したものの、今後絶滅しそうな生き物が少なくないという。

恐竜など太古の生き物が絶滅したのは人間のせいではないが、人間の生活が近代化してからは、人間の活動の影響による生き物の絶滅が増えているという。

人間は目覚めて、他の生物を絶滅させると、人間に災いとなって跳ね返ってくることに気が付いた。地球上には雑多な生物がいて、食うか食われるかの連鎖と循環によって、自然が保たれているというのが、現代の先進的指導的な考え方となっている。

昔、この武蔵野は原野で、生き物が多くいた。草が繁り、昆虫が飛び交い葉を食べ、鳥がきて昆虫を食べた。獣もいた。今は緑が少なく、少ない緑の葉は虫食いもなく一見きれいだが、虫の少ない茂みには鳥も少ない。現在の小平は生物多様性に乏しいと言わなければならない。昔のように、草木の葉が虫に食われて変形、黄色し、鳥が舞う光景が、生き物が多様にいる一つの姿といえよう。生物多様性というのは、そういう状態を回復し、維持していこうという考え方の基礎となっている。昔からいるどんな生き物も、人間の都合で絶滅させてはならないという考え方につながる。



生物多様性の理念は、色々な言い換えができる。例えば、全ての生物は地球上に存在する権利を等しく持っていると言うこともできる。それは人間が無反省に行ってきた他の生物の生命を奪う行為を戒めるものである。

動物の多くは生き物を食べて生きている。食べる側の生き物は、食べられる側の生き物から見れば敵となる。敵が絶滅すれば安泰のように思うが、生き物全体からみればそうではない。

人間に害になる生き物は絶滅した方がよいか、といえそうではない。蚊や蠅が絶滅すると人間にはよくても、蚊や蠅を食べている生き物が絶滅する。するとその生き物を

食べている生き物が絶滅する。こうして絶滅の連鎖が起きる。また、蚊や蟻が絶滅すると、蚊や蟻が食べていた生き物が異常に増えて生態系が乱れる。だから、蚊や蟻は人間の近くにいるのは退治するとしても、絶滅させてはいけない。このことは細菌などに付いてもいえる。人間に害のある生き物は、人間の活動領域から遠ざけることで害を防ぐという考え方が大切となる。

バッタが大発生して農作物を食い尽したり、オニヒトデの大発生で珊瑚が壊滅した話もある。食べ物を食い尽したバッタやオニヒトデは、そのあと食べ物がなくなり、短期間で大量死する。人類も数十年、百年の長期間の中で大発生中であるが、食糧が理由で大量死に至らないためにも、生物多様性という考え方の大切さを思い知る必要がある。そうはいつでも、生物の本能的行動による自然の生態系の変化をどう捉えるか、人間がどこまで放置し、どこまで制御するか。生物多様性の理念が自己矛盾に陥らないような答を見出すことは簡単ではない。

小平には先人が開発した用水路がある。人間はもちろん、多くの生き物の命の源であった。小平が自然の生き物に乏しいのは用水路の水が涸れるからだ、と愚えてならない。



今年度新しく二人の会員が増えました。曾我さんと田中さんです。お二方の文を紹介します。

私の宗教感

曾我 孝司

宗教は人間の心に平安をもたらし、社会に平和をもたらすものである。

ところが現実には、むしろ宗教は人間の心を不安にさせ、社会に争いを持ち込んでいる。

宗教が悪いのではなく、本当の悪魔は、宗教を利用する者の欲望とエゴだ。国家・民族・個人のエゴが過剰に露出し、個人の幸福を踏みにじっている。欲望とエゴは人間の本能かも知れないが、要は人間の身勝手な心のあり方を人類の幸せのために止めるべきだ。

この度、地中海クルーズの旅でイタリア・フランス・スペイン・チュニジア（イスラムの国）を巡り大聖堂を観光してきましたが、個人の信仰心は尊いものだとつくづく感じたものの、宗教の指導者の勝手な欲望とエゴで本来の宗教の精神が曲げられているのも感じました。欧州の歴史は宗教間の争いそのものだとは前から感じていたが間違いないという認識を強めました。



神が人の運命を支配していると教えておるが、実は全ての人は神よりも創造主だと思
うし、また宗教は宗教を教えているのであって靈性を教えてはいない。私は、人は誰で
も信仰心を抱いておりますので神と人間は同性的だと思っています。ですから、個人個
人一人一人の心のあり方ないし持ち方が神となるのではないかと判断します。自分自身
の心に神は存在しております。要は、宗教に頼らずに自分の強力な精神と意志で人
生を歩みたいと思います。

春の風景：小川用水を引き込んだ小川緑地の池で、今水芭蕉が白い花を咲かせています。
新堀用水の東小川橋～寺橋の少し先まで、用水の両側でカタクリの可愛い薄紫色の花を楽し
めます。また玉川上水の北側には春蘭が緑色の花をつけています。見頃は4月いっぱい。



平成24年度会計報告

平成24年度会計報告(2012. 4. 1～2013. 3. 31)会計:佐藤忠彦

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度繰越金	125,718	活 動 費	12,821
会 費	28,000	通 信 費	800
謝 礼	70,000	手 数 料	1,000
冊子売上金	1,400	次年度繰越金	210,497
合 計	225,118	合 計	225,118

☆ 会計報告では現在当会の資金状況は潤沢ですが、実は平成24年度も終了近くになって
「小平の用水路」の在庫が残り僅かとなりました。活動報告をご覧頂ければ分かるよ
うに24年度は小学校への出前授業が多くありました。これは当会の活動に賛同された
社会教育委員の大杉さんの声掛けにもよりますが、パンフレット「小平の用水路」が
大変に好評で、その影響も大きいと思います。そこで急遽民間の助成金に3件申請し
ましたが、受理されぬ場合は会費の残金全てを拠出して印刷する予定でした。

幸い東京ガスの助成を得ましたが、まだ「用水路 昔語り 第1・2・3集」の印
刷があります。そのため資金は貯蓄しておきます。

新年度となります。御手数ですが会員の方は会費の振り込みをよろ

しくお願い致します。

小平の用水を学ぼう

ようせいばんけんたい
～こだいら用水探検隊～

小平に流れる用水の水はどこからくるのか知っていますか？
小平町から小平市になって50年を前に、用水の歴史や役割を
学び、用水の水にふれ、水を使ってどんな生きものがいるのか
調べます！



平成24年度活動報告

- 5月…グリーンフェスティバル参加
3小出前授業
 - 6月…全国一斉身近な水質検査実施
 - 7月…中央公民館ジュニア講座
 - 10月…1・4・9・14・学園東小出前授業
 - 11月…用水路の生き物調査(秋)
 - 1月…大沼公民館祭り参加
 - 2月…2小出前授業
用水路の生き物調査(冬)
 - 3月…会報印刷・発行
- この他毎月第1・3水曜日午前 グリーンロード親水公園整備、第4水曜日「青らんぎ」にて定例会



☆平成24年度は7つの小学校で出前授業をし、3つの小学校からは子供たちの微笑ましい懇話文を頂きました。また3小からは発表会に招待され、4年生の「小平の宝物」という劇を見て出前授業の成果を痛感しました。

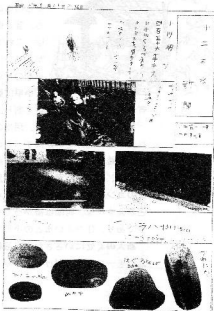
公民館主催のジュニア講座では用水路に入って子供たちが生き物を捕獲し、それを用水新聞にしました。大沼公民館では70名を超える聴衆が集まり盛況でした。

多くの人々に用水路の話ができたことは良いのですが「小平の用水路」の在庫がなくなり、慌てて助成金を3件申請しました。その結果東京ガスから助成金を得ることができました。

平成25年度活動予定

- 4月…「小平の用水路」印刷(アトミ)
用水路の生き物調査(春)
- 5月…12日 グリーンフェスティバル
- 6月…全国一斉身近な水質検査
公開学習週間中での出前授業
- 7月…25・26・27 大沼公民館ジュニア講座
用水路の生き物調査(夏)
- 10月…公開学習週間中での出前授業
- 11月…公開学習会開催予定
用水路の生き物調査(秋)
- 2月…公開学習週間中での出前授業
- 3月…会報印刷・発行
用水路の生き物調査(冬)

☆その他市長・公園課との会談も再開予定です。



新会員の仲間入り、よろしく願い申し上げます

田中 稔

小平市広報で、市制施行50周年記念まつり講演会「第12回大沼公民館祭り」が開催され、「小平の用水路を知ろう」とのタイトルに惹かれて、1月19日に講演を聞いたのが入会のきっかけでした。そんなわけで入会数ヶ月のホヤホヤ新人です。知識と活動・実績に満ち溢れておられる先輩の皆様におかれましては、今後よろしくご指導をお願い申し上げます。

1年位前に自宅周辺を散歩していると、水が流れていたり空堀だったりの用水が小平市のあちこちに存在しているのを、遅ればせながら知ると共に、「用水」が小平の町の歴史でもあることを見聞やパンフレットで教えられ、興味が湧いてきた矢先の時に出会えたのが「こだいら 水と緑の会」でした。冒頭で申し上げた通り、私自身が知識もなく、活動と言っても日浅く語る資格があると思えませんが、自然と協調しつつ、「新しい視点に立って、古き良きものを大切に、次の世代へ温もりを」の気持ちをもって活動したいと思っております。代表を始め先輩会員の方々が築き上げられた立派な活動に「大沼田用水と親水公園」での現在も続く取り組みがあります。この活動を更に盛り上げていくために何をもっとしたらいいのか、この活動を通じてより多くの方が興味と関心を持っていただけるものは何か、目的と手段を明確にしつつ、更なる高みへのお手伝いが出来ますよう頑張ります。



少し前に親水公園近くの「小平ふるさと村」へ行った時に、水車が回っていました。その水車は、小平でかつて使用されていた伝統的なものではないようで、その上水車を動かす水の流れは用水からのものではなく、巡回水を利用していたものでした。それでも、昔を偲ぶ風景を提供し楽しませてくれています。それでは、これで十分なのだろうか。実は欲張りとは思いつつも、何かが足りない、何だろうか……。私なりの考えですが、折角の水車なのだから用水を使用することは出来ないのか。そして、かつて小平に数多くいた鳥・虫等の虫、めだか等の魚が住み、小平特有の草花で彩られる環境を創り上げられたらもっといいのではないかと、思うのです。

勿論簡単でないことは、用水の流れを確実に維持する難しさにあると思います。限られた水量の配分をいかにすべきか。例えば水車があったとしても、そこへ流せるのか。実現が困難なことから、ふるさと村では用水を活用出来なかったのでしょう。

では、永遠に不可能なのか。別の場所ならどうなのか。勿論、用水の在り方を含め市民のコンセンサスを得ることから始めなければなりません、目的をはっきりさせることさえすれば、時間は掛かっても理解されるものと思います。目的は、自然の活用・保全であり、住みよい市との小平市民の共感と一体感です。

新人のくせにいささか大風呂敷めいた話で恐縮ですが、夢は大きく持ちつつ、着実な活動の一つずつ心がけてまいります。

2013年の小平市は、冬の季節風と春の低気圧の強い風が、短冊型の畑地の軽い土を風にあおられて飛散し、200m先の山林や作場が黄塵で空高く黄褐色を呈して、夕焼け空のように赤空と化してしまう。そこで、耕作地の土壌浸食を防ぐために、耕作地の中に防風堰が設けられるようになった。風害と、少ない作物の成長を助けることを目的とする茶の一行植えが考えられ、それは土地利用のひとつの特色である。冬の強風が北西であるため、茶の一行植えは東西に長く植えられている。

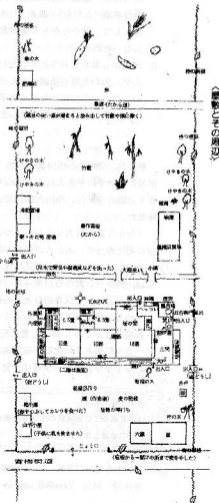
小平市で現在、短冊型の畑地がまともに残っているのは青梅街道の南側から鷹の街道の間で、かつ西武国分寺線から五中通りまでのわずかな地域となった。この地域には昔から「たから道」と呼ばれている小路が通じている。小平市のHPで「里道（りどう）・用水路」で検索すると、画面がたから道（里道）と出て説明も書いてある。

- ① 宝の道なんて言う人があるけど、ありゃあ間違いだよ。竹の原の道と書くんだ。竹の原を通っている道。下（しも）から上（かみ）まで、端からずうっと続いている道のことで、隣の家と自分の家の庭と庭をつなぐ道で青梅街道の南側の家だけにあるんだよ。わしら子供の時分、「十五夜さん上がったかい」って、そこを通って、みんなでもらい歩いたもんだね。（明治39年生 男）

注：「十五夜」秋、お月さんに、すすき十五本、団子、柿、栗、芋などを箕（み）に入れてお供えをする。お供え物は近所の子供たちにさげる。日が暮れると子供たちは「十五夜さげろ」と囃えながら、家々を回って歩き栗や団子をもたらるのが楽しみだった。

—「小平むかしむかし」より—

- ② たから道っていうのは、青梅街道の南側の家だけしかない。北側にはないですよ。隣の家とを結ぶ道で、塵敷の裏にあって北風の来ない南に面した日当たりのいい所。だれかの家を訪ねて行ったりした時ね、「今、たからにいるから行ってみなさい」って言われたりしてね。あったかくて



宝の山の山みたいだからでしょうかね。(大正3年生 男)

—「小平ちょっと昔」より—

- ③ 昔は「たから道あ」って、川の縁をずっと「たから通し」って言って一小から歩いてこれた。そういう道が市の朱引きで一本通ってた。ちょっと男の子にいじめられると「たから通し」で帰っちゃうよ、なんて言ってね。(昭和6年生 女)
- ④ 川向こうの家と家の間を歩いて学校に行ったもの。「たからの道」って呼んでたわね。
(昭和4年生 女)

—「用水路 昔語り 第一集」より—

- ⑤ 小平・ききがきの会編「ききがき 小川四番の女たちⅡ」の『屋敷とその周辺』に、青梅街道・屋敷・農作業場・畑の配置図(前頁に掲載)が描かれている。その中に農作業場(たから)・農道(たから道)・隣家出入り口(たから道)と記されており、注として、庭やたからで農作業をし、庭どうしやたから道を使って隣との行き来をした、とある。
- ⑥ 水路から奥をタカラと言いましてね。どういうことでタカラと言うのか分かりませんが、川の北側も南側もタカラって言うんですが、ある人に言わせればタカラっていうのはそこで作ったものを干したりする場所のことだからタカラって言うとも言うし、それでいて北側はあんまり陽がささない。(小川寺住職17代 男)

—「用水路 昔語り 第三集」より—

春の日、小川寺の小川九郎兵衛(享年48歳)の墓を詣でた。寺の中を小川用水の清流が流れていて、手を入れるとひんやりした。そして墓のバックに冠雪した富士山がくつきりと眺められた。小川九郎兵衛さんは富士山をどんな想いで眺めたんだろうと思いを馳せた。

「たから道」は入り口がちょっと分かりづらい。たから道は屋敷の裏、竹林や柵の垣根の間にあって、人と人が衣すりあう位の幅しかない路地。短冊型の畑地に茶の防風垣や櫛の山林、小平の原型が味わえる素晴らしい景色だ。人が通らない、ゴミが落ちていない、静かだ。風の音が清らかに聞こえるのみ。

そうだ、たからは身近なところにある！たからは日常の生活の中にある！

しかし、都市計画道路：小平3・3・3号(新五日市街道線)の計画がある。東大和市～西東京市までの8,580m、青梅街道と麩の街道の間を28m幅の幹線道路を通す計画で、花小金井駅前と小川町区画整理済みの部分、各300mは整備済みである。これが実施されたら小平市の景観や環境は一変するのは明らかである。

編集後記(馬場)

四季を通じての用水路の生き物調査を小川寺と上宿図書館前で実施しています。楽しい発見がありますので参加しませんか？

問い合わせ・ご意見 042-345-6772 馬場

当会 HP <http://www009.upp.so-net.ne.jp/water-green/>

